

「文化資本研究会」3月21日（日）15:00～16:30 司会：金井萬造

- 「海・里・山の循環」をテーマにして、京都・遠野・住田をつないで研究会が実施された。これまで、研究会に関係した皆様の集まりと交流、そして、取り組みの報告がされた。
- ① 岸本正美先生はこれから全国各地で進められる地域文化史の取り組みについて報告され、これからの取り組みに参考になった。
 - ② 遠野の浅沼亜希子様・宮良千加様は「布のある暮らし」の全国的取り組みでの沖縄の「琉球染色」・花藍者からの報告をされた。越智和子を中心にした取り組みは全国と世界を視野に行動されており、地域資源と地域特性と取り組み人財の育成や流通過程までを考慮した事業化過程にある。
 - ③ 千葉修悦先生は岩手県住田町のふるさと創生大学の2年間の歩みとこれからの取り組みを報告された。取り組みの進展は素晴らしいと感じた。
 - ④ 岸本直美先生は食文化と経営とまちづくりについてのこれまでの取り組みを報告された。食文化の新しい取り組みの展望を提示された。
 - ⑤ 金井萬造はこれまでの文化資本研究会と海・里・山の循環について総括的な視点と今後の取り組みの課題を整理した。
 - ⑥ 遠野・住田・京都・個別（自宅等）から参加されている方々に一言づつご発言をお願いした。コロナ禍でのお出合いが難しい時期にオンラインで顔やお声を拝見して、とても有意義な研究会になった。

新年度は、これまでの取り組みの発展を踏まえてのそれぞれの地域での展開が実践的で進化したものになるように、地域の文化資本を生かした取り組みの進展を期待する良い機会になった。コロナ禍での対応として注意しながら現場の実践を見据えて、新たな工夫が必要である。

対象地域での具体的な事業課題に焦点を当てて、地域運営経営の事業主体と取り組み課題に着目して、実践していく方向での取り組みとしては遠野地域、住田・気仙地域という対象地域を明確に意識し、地域再生・地域創造の実践課題と各人の専門分野からの貢献や地域の取り組みに寄り添った事業論的展開が課題になる。そのため、全体の文化資本研究と個別地域・個別課題・個別事業に着目した分化した取り組みも検討していく段階にきているように思われる。

そして、これらの個々の取り組みを交流してお互いにより影響をもたらす方向で地域の文化資本が地域の歴史的・文化的・地理的環境に対応した個性的で新たな発展した取り組みの具体化が求められていくように思った。

関係者のご努力に感謝するとともに専門分野と地域に根差した現地主義での地域再生につながる展開に関係者がさらに寄り添っていく姿が見えてきている。

新たな段階にあった取り組みの実践とそのことのご理解とご協力をお願いしたい。大きな取り組みの成果の発表と将来に向けての展望が開けてきた。